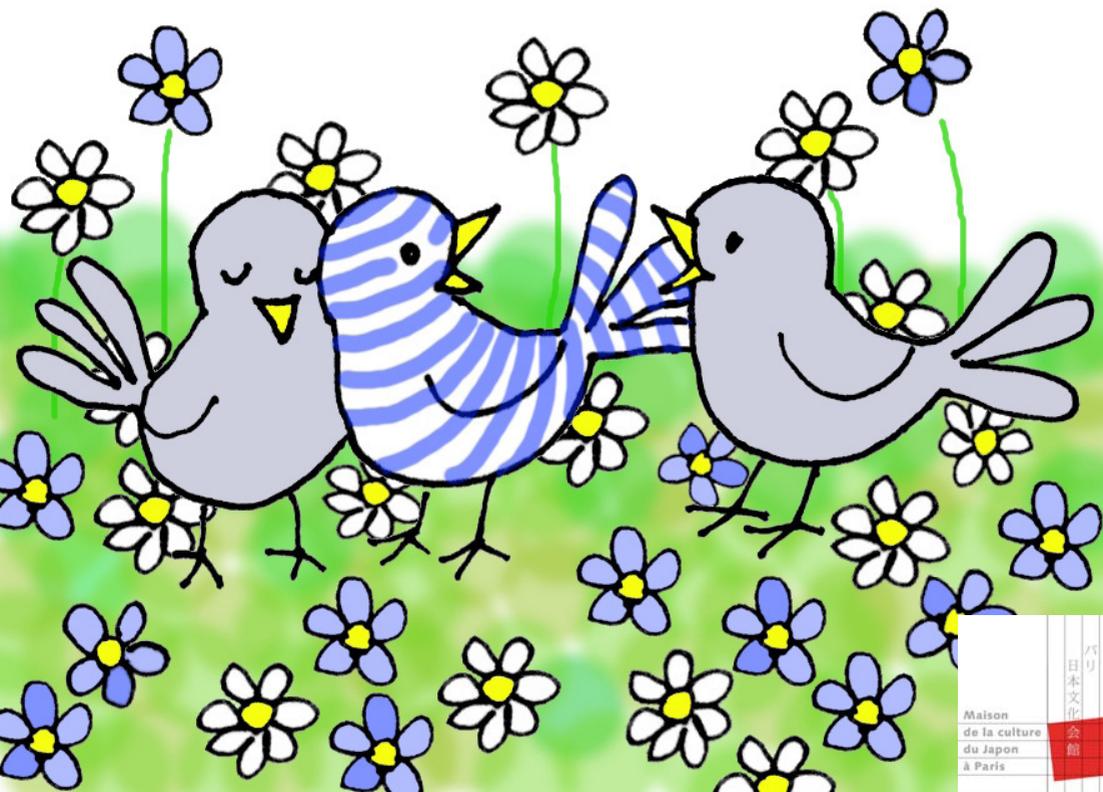


しましまの鳥とり

さく 作
え 絵

なか お ゆき え
中 尾 雪 絵
ば ば きょう こ
馬 場 恭 子



しましまの鳥^{とり}

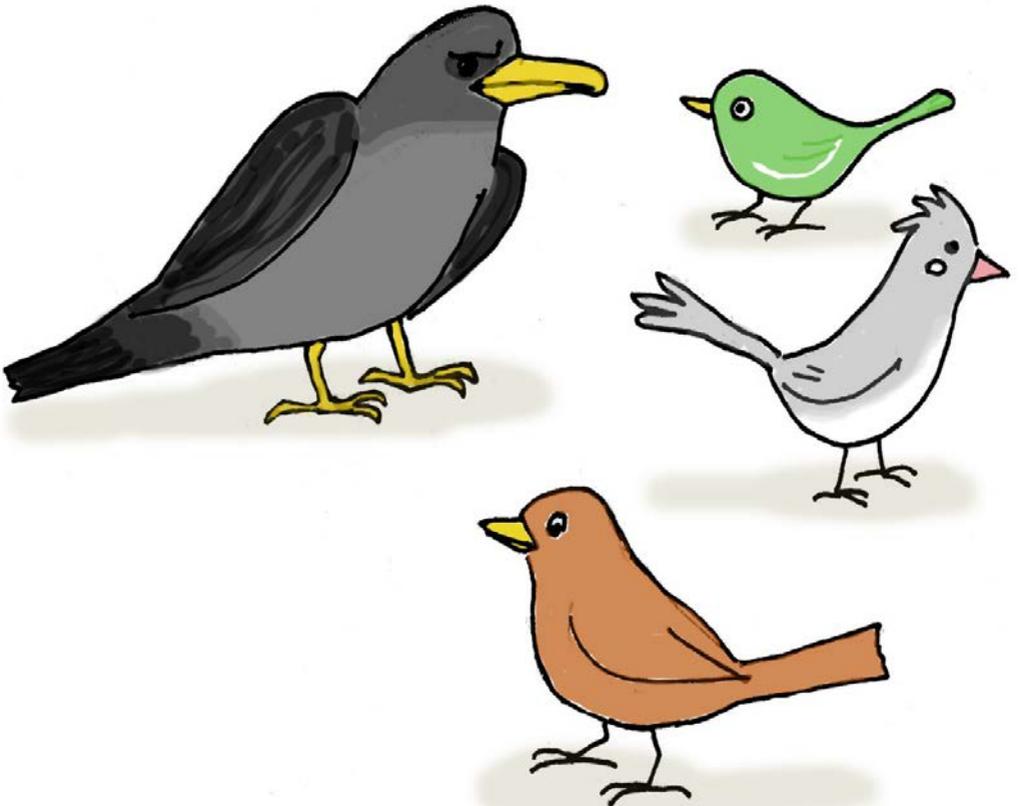
さく なく お ゆき え
作 中 尾 雪 絵
え ば ば きょう こ
絵 馬 場 恭 子



もり
なか
森の中に、
たくさんの鳥が
とり
住んでいます。

ちい
とり
小さい鳥、
おお
とり
大きい鳥、
あし
なが
とり
足が長い鳥、
およ
とり
泳ぐのが好きな鳥、
あそ
だい
とり
遊ぶのが大好きな鳥…

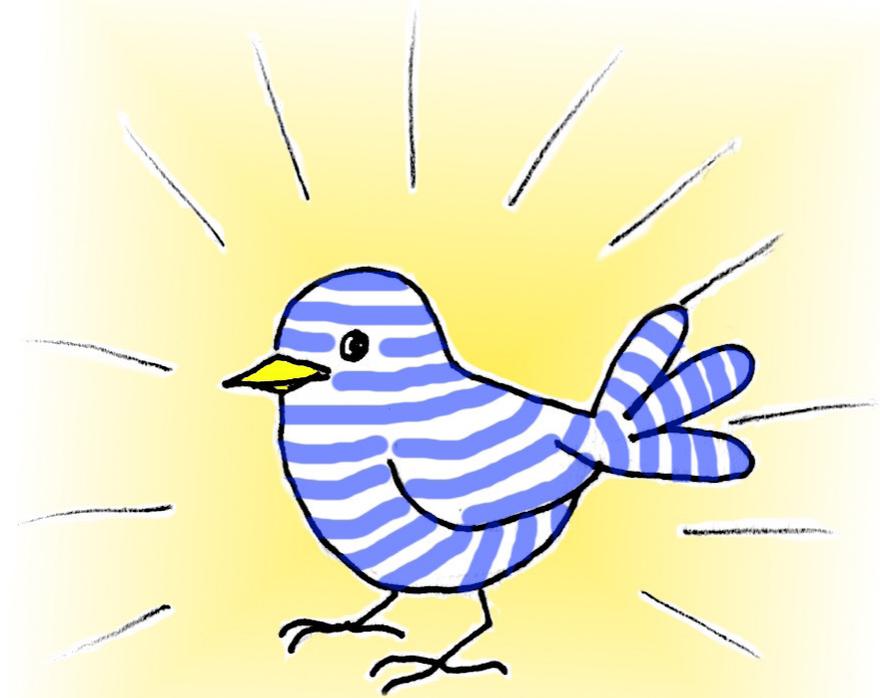
みどりの鳥、
茶色の鳥、黒い鳥、
ちよつと灰色の鳥、
そして…

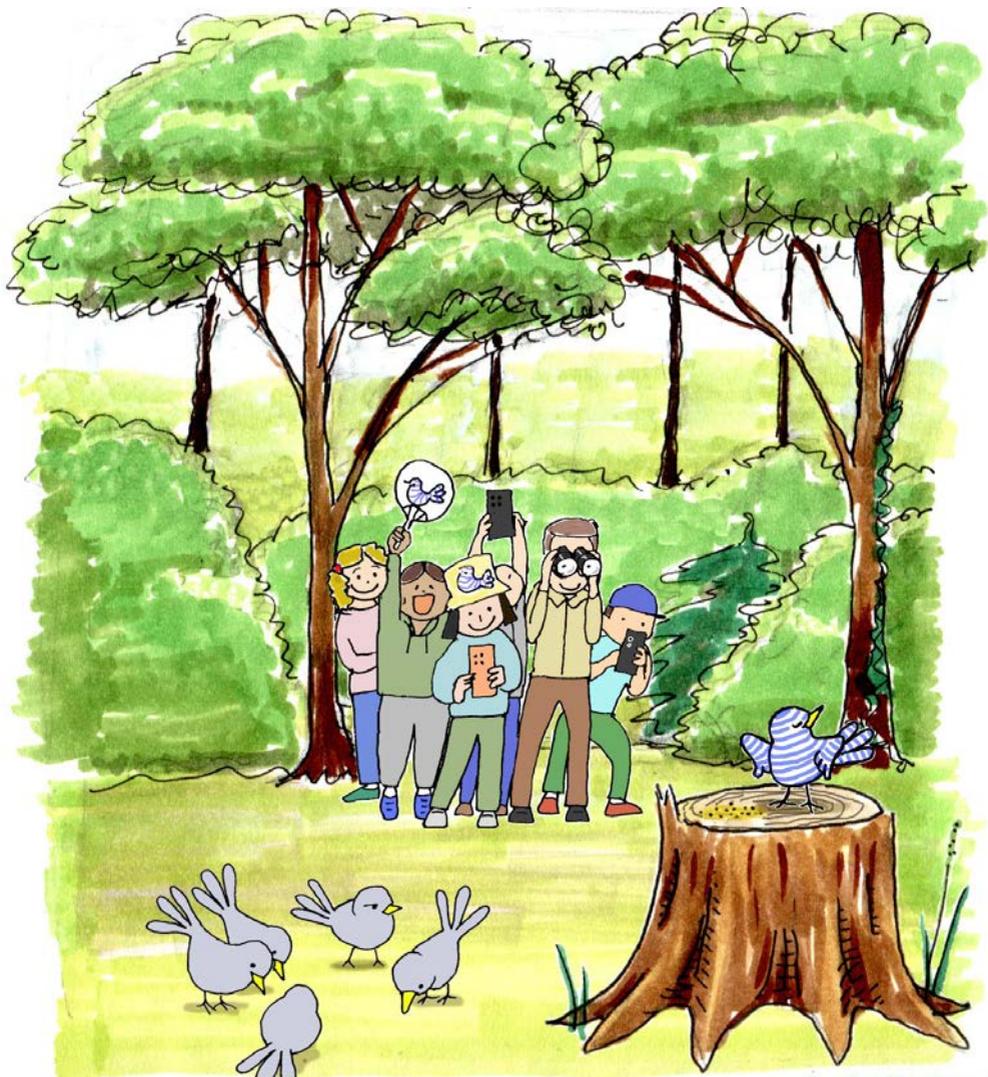


しまちやんがいます。

あおしろ
青と白の

しましまです。





しまちゃんは、
めずらしい
しましま模様で、
小さいときから
有名でした。

でも、このごろ、
ちよっと元気がありません。
どうしたんでしよう。

しまちゃんには、
悩みがありました。

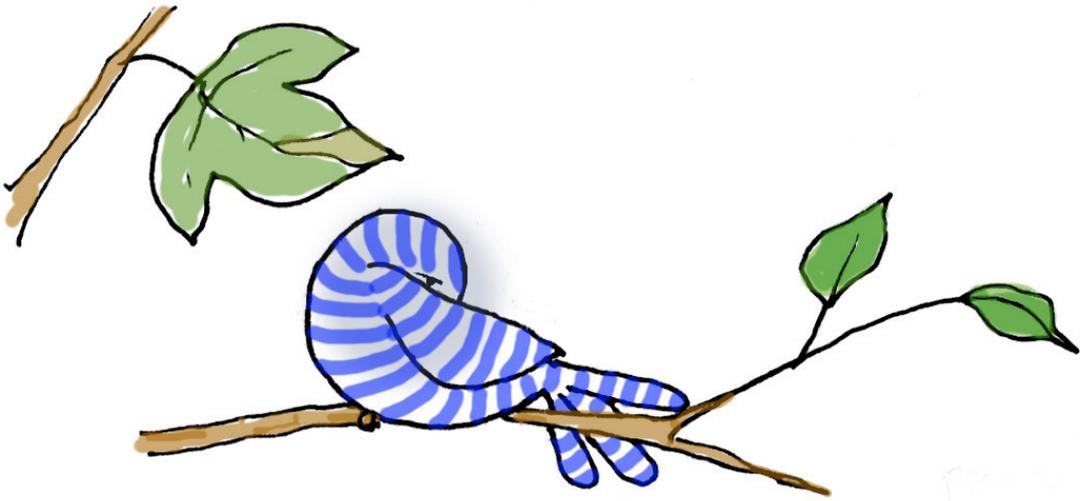
食べ物を探しているとき、

青と白の

きれいなしまのせいで、

他の動物に

すぐ見つかるのです。





「ごめんね、
しまちゃん」

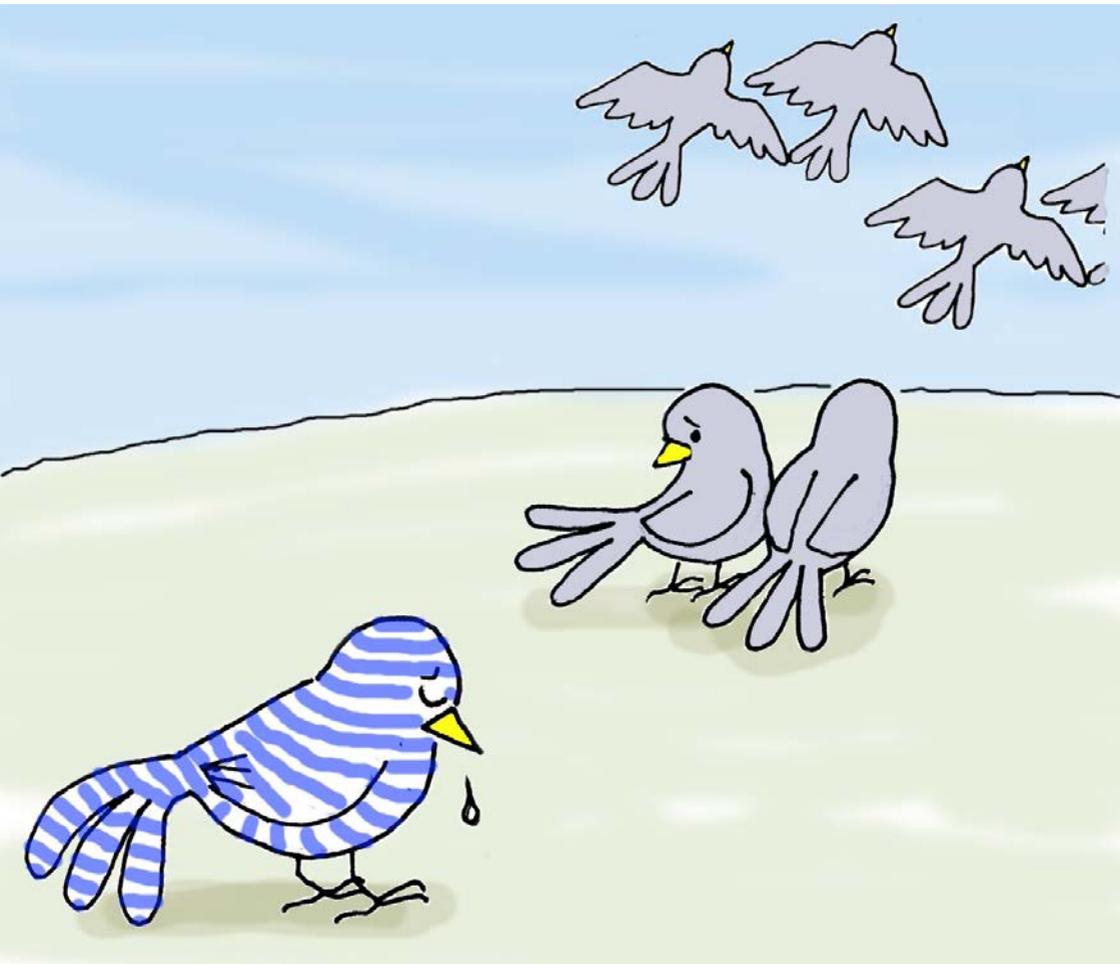
そう言って、
他の鳥は、

しまちゃんと

いっしょに

食べ物を探すのを

やめてしまいました。



しまちゃんは、

自分のしましまが、

もう好きではありませんでした。

だから、ずっと巣の中にいて、

ときどき食べ物を探しに、

ひとりで出かけました。



みんなは心配しんぱいしました。

「しまちゃんはどこ？」

「どうしたんだろう？」

「しまちゃん、元気げんきかな？」



ある日、

怖い^{こわ}ことがありました。

しましまのせいで、

大きな動物^{どうぶつ}に見つ^みかって、

食^たべられそうに

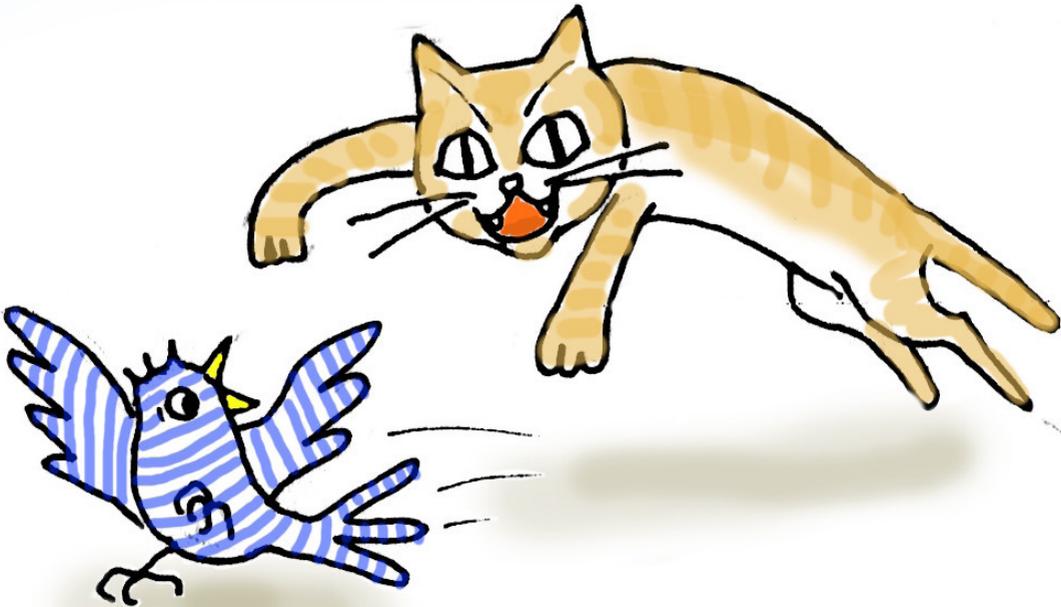
なったのです！

しまちゃん

は疲^{つか}れてしまいました。

「このしましま、

ほん^{ほん}とう^{とう}だいき^きら^ら本当に大嫌^{だいきら}いだ！」





その夜、よる

しまちゃん

は巣すを出でました。

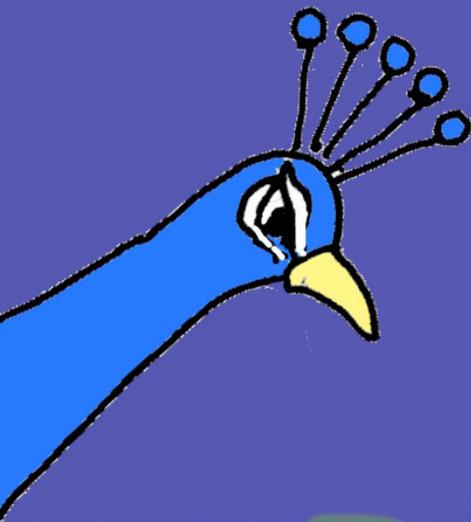
とても美うつくしい夜よるでした。

しまちゃんは

泣なきながら、

暗くらい空そらを

飛とびました。



ちい
小さな泉で、しまちゃんは、
水を飲みました。

とてもおいしい水でした。

そのとき、

「こんばんは」と、

声が聞こえました。

大きなクジャクでした。

「こんばんは、クジャクさん」

「こんな遅い時間に、

ひとりですか」

「…ええ」と、

しまちゃんは答えました。

「このしましまのせいで、

他の鳥ほか とりといっしょに

食べ物た ものを探さがすことができませぬ。

だから、ひとりなんです」

すると、クジヤクは言いいました。

「わかりますよ」

そして、クジヤクは羽はねを広ひろげました。

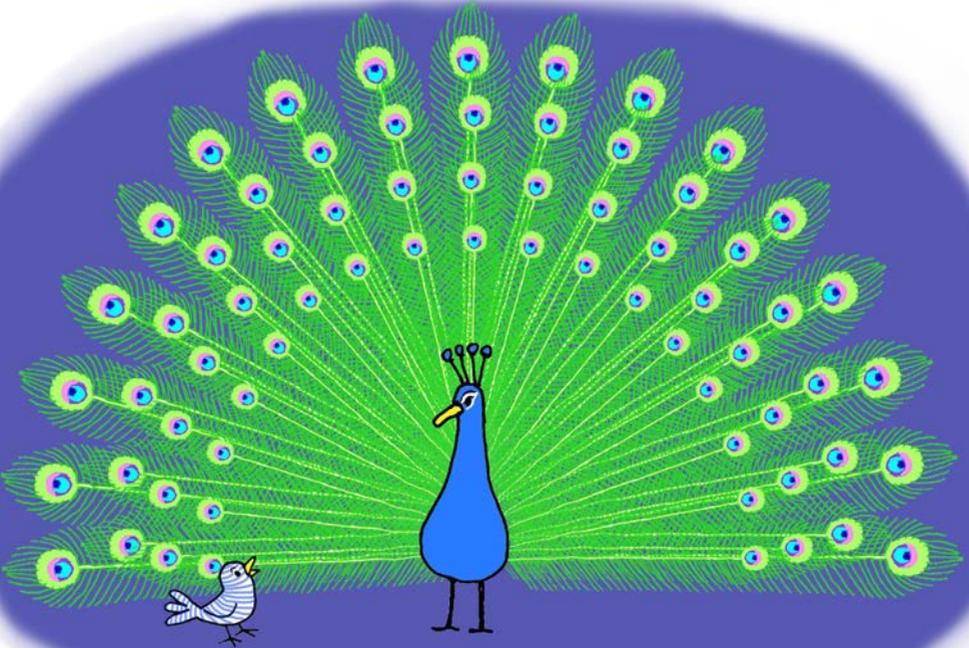
とても大おおきくて、美うつくしい羽はねでした。

しまちゃん**はびっくり**しました。

「うわあ、きれいですね！」

「でしよう?。」と**い**って、

クジヤクは羽はねをたたみました。





「この羽はねは、きれいです。
でも、この羽はねをみ見ると、

みんながびっくりするから、
ちよっと恥はずかしい。

でも、

これがクジヤクの羽はねです」

クジヤクは、言いいました。

しまちゃんはため息をつきました。

「私だけ、しましななんです。」

小さいときは、このしましまが

大好きだったけど……」

すると、クジヤクが言いました。

「ほら、ここにある花は、

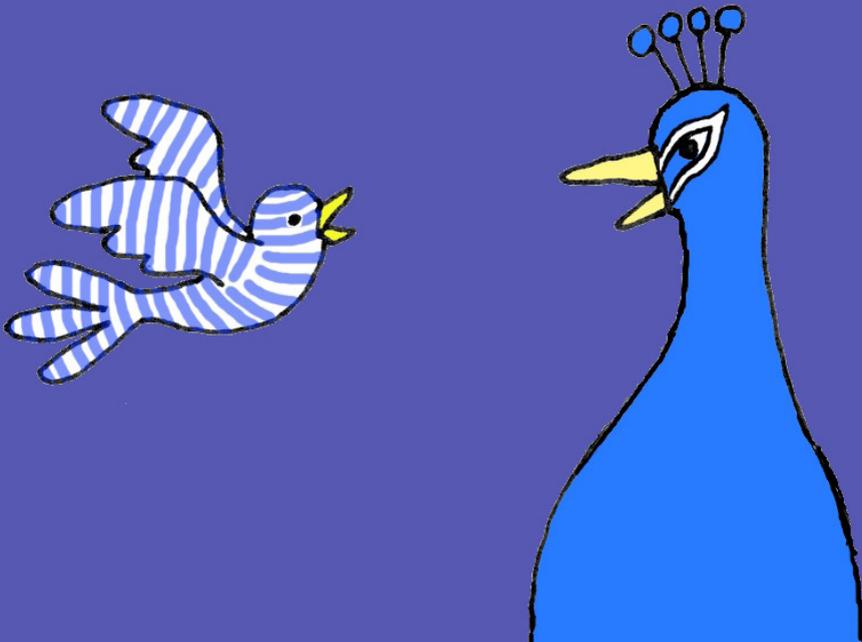
色も形もいろいろでしょう」

「ええ」

「鳥も同じ。」

色も形もいろいろだから、

おもしろいのです」





しまちゃんは、

朝までクジヤクと話して、

それから、

森へ帰りました。

森には、大きな木、小さな木、

いろいろな形の花…

みんな違っていました。

「みんな違う…。」

色も形も大きさもいろいろ…。

だから…

いいんだ！」

そんなとき、

へビが木に登っているのが

見えました。

木の上には、

鳥の赤ちゃんがいます。

でも、

お母さん鳥がいません。

「危ない！」

しまちゃんは、

急いで

へビに近づきました。



そして、クジヤクのように、
自分の羽じぶん はね ひろを広げました！

へビは、

しまちゃんの

きれいな青あおと白しろのしましまに

びっくりして、

木きから落おちてしまいました。

そして、

どこかへ逃にげていきました。

そこへ、

お母かあさん鳥どりが帰かえってきました。

「しまちゃん、ありがとう！」





ニュースを聞いて、

みんなが、

しまちゃんに会いに来ました。

「しまちゃん、すごいね」

「しまちゃん、かっこいい」

しまちゃんは、自分の羽が

きれいなしましまでよかった、

とおもいました。

そして、自分のしましまが、

またちょっと好きになりました。

今、しまちゃんは、
仲間と楽しく暮らしています。
みなさんも、
森へ行くことがあったら、
しまちゃんを
探してみてください。



さく なか お ゆき え
作 中尾 雪絵

おおさかう げんざい ざいじゅう
大阪生まれ、現在フランスのナント在住、
ナント大学で日本語を教える日本語教師。
しゅみ たね そだ えんげい
趣味は、(種から育てる) ベランダ園芸と
ごりようめく
御陵巡り。
しゅうまつ たの
週末の楽しみは、パン・オ・ショコラ
またはクロワッサン。



え ば ば きょう こ
絵 馬場恭子

いばら き けんしゅっしん
茨城県出身。
し みん だ い が く
ドイツ、ヒルデスハイム市民大学と、
お う よ う か が く げ い じ ゅ つ だ い が く に ほ ん こ
ハノーバー応用科学・芸術大学で日本語を
おし
教えている。
しゅみ え か
趣味は絵を描くことと、バードウォッチング。



へんしゅう めぐみ ありすえ じゅん
編集 石川芽生, 蟻末 淳

しましまの鳥

2025年11月20日初版発行

さく なか お ゆき え
作 中尾 雪絵
え ば ば きょう こ
絵 馬場恭子

はっこうしょ こくさいこうりゅうききん にほんぶんかいかん にほんごじぎょうぶ
発行所 国際交流基金パリ日本文化会館日本語事業部



国際交流基金パリ日本文化会館日本語事業部